

湯浅なすの青果販売用果実生産に適した栽培技術

和歌山県農業試験場 矢部 泰弘

背景・目的

湯浅なすは金山寺味噌の具材として用いられる湯浅地域在来の大型丸ナスである。近年、青果販売が始められたが、青果販売用果実の割合が低いので、その割合を高める栽培技術を開発する。

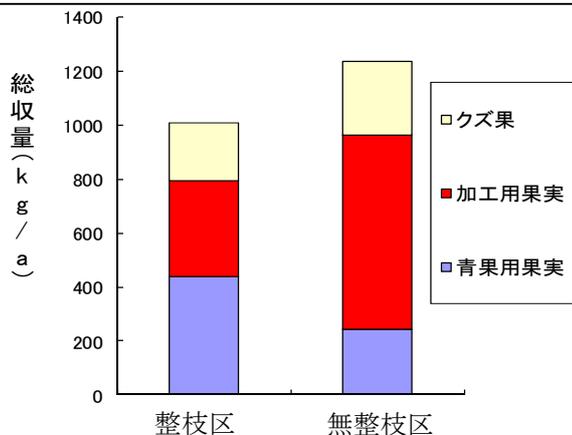


図1 整枝が品質構成に及ぼす影響(2012年)

畝幅：200cm 株間：100cm
 条数：1条 栽植密度：50株/a
 整枝区：吊り下げ誘引主枝4本仕立て
 無整枝区：無整枝・無剪定、ネットで枝を支持
 定植日：5月21日
 調査期間：7月26日～10月1日
 品質：
 青果用果実・・・無傷で虫害が無く、果形が丸い果実。
 加工用果実・・・着色不良果や乱形果。
 クズ果・・・ツヤ無し果や裂果、虫害果。

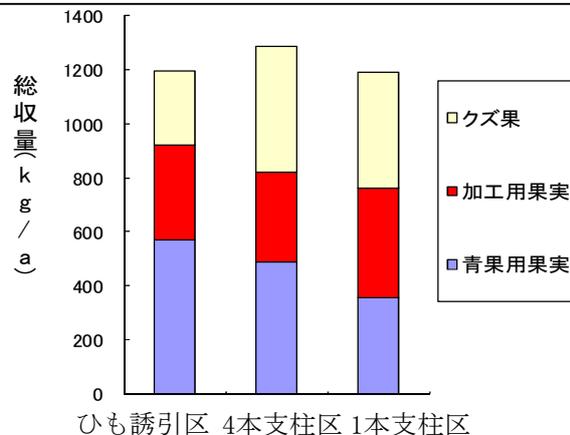


図2 誘引方法が品質構成に及ぼす影響(2013年)

畝幅：180cm 株間：150cm
 条数：1条 栽植密度：33株/a
 定植日：5月13日
 調査期間：6月27日～10月21日
 品質：図1と同じ
 ひも誘引区、4本支柱区、1本支柱区については図4参照

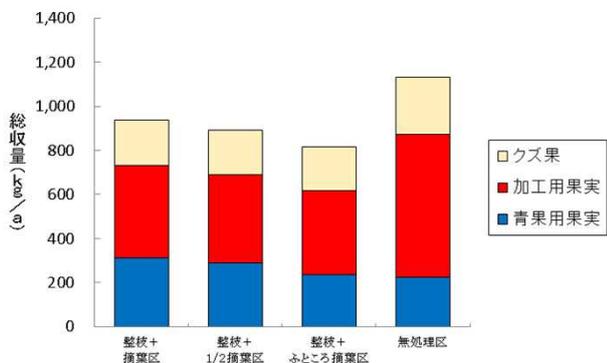


図3 整枝及び摘葉処理が品質構成に及ぼす影響(2015年)

畝幅：200cm 株間：150cm
 条数：1条 栽植密度：35株/a
 定植日：4月28日
 調査期間：6月22日～10月8日
 品質：図1と同じ
 整枝、摘葉方法については図5参照



図4 各試験区の草姿(2013年)



図5 整枝、摘葉方法(2015年)

摘葉区：上記のとおり、1/2摘葉区：②④の摘葉を1/2程度の側枝に処理、ふところ摘葉区：主枝及び側枝基部(ふところ部分)の大きな葉を全て摘葉

結果要約

- 1) 主枝をひも誘引で4本に仕立てると、無整枝に比べて青果用果実の収量増加
- 2) 整枝+摘葉処理を行うと無整枝に比べて青果用果実の収量増加